

## 3 各事務室報告

### 3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、図書館全般の予算管理、契約、交渉等の庶務業務、経理業務、図書受入・整理・装備業務、雑誌業務、図書館システム関連業務および中央図書館の資料発注業務を含め、図書館の管理運営業務の大部分を担当しているが、さらにこれに加えて、本格化した「明治大学国際マンガ図書館(仮称)」関連業務や、米沢嘉博記念図書館の運営サポートも担当している。実際には、これらのマンガ関連の業務追加に伴う人員手当ては行われておらず、非常に厳しい少人数下での業務遂行となっている。また、2012年開設予定の新和泉図書館関連の業務の増加、中野キャンパス図書館の検討など、当面は厳しい環境下での業務遂行とならざるを得ない。

#### 3.1.1 補助金

2010年度も、私立大学等経常費補助金(特別補助)の申請については、図書館独自政策を行っていない。これは昨年に引き続き、図書館政策に適合する申請がないことが原因である。従来どおり、電子ジャーナルやデータベース等のICT関連の特別補助申請および継続案件(貸出機会の増大と読書推進活動の一部)については、継続申請を行った。

高額資料への補助については、2点申請を行ったが、「ジャン＝フランソワ・シャンポリオン「エジプトとヌビアの記念物」初版」については採択された。

#### 3.1.2 除籍

2010年度は、前期に約3万冊、後期に3千冊の除籍を行った。前期に例年になく大量の除籍を実施したのは、新和泉図書館建設に伴う施設移転のため、極力移転資料を軽減するためであった。なお、例年通り、資産台帳の除籍処理については、業務委託で実施している。

すでに、本学の書庫収容は限界に達しており、除籍等の処理によってある程度の資料収容スペースを確保しなければならず、これは喫緊の課題であるが、除籍作業には閲覧現場を含めて多くの労力が必要であり、今後は大規模除籍に向けたフレームワーク作りが急務である。

#### 3.1.3 請求記号ラベルの変更

昨年度に引き続き、目録・装備委託業務の見直しをした結果、開架・閉架をわける赤黒ラベル2種類の請求記号印刷が、装備業務の効率を下げ、かつミスの原因の一つとなっていることがわかり、対応策として、全館統一ラベル(開閉の区別は第4区分の印字で行う)の使用を検討した。閲覧部署連絡会を通じてデザイン、印字形式などの希望や統一をはかり、明大のマークをあしらった紫紺のラベルを2011年度より使用開始の予定である。

#### 3.1.4 目録・装備業務委託業者の一斉切り替え

2010年4月より、目録・装備委託業者が一斉に切り替わった。1月から3月までの間に、仕様書、マニュアルの全面改訂、委託責任者への一週間の事前研修などの準備をしたが、仕様書やマニュアルだけで実務をこなすことは不可能なため、4月から約5ヶ月にわたり、目録チーム職員から新業者の実務対応者に対して目録作成、装備における明大ルールのレクチャーを毎日行った。同時期に図書館システム的大幅な変更があり、目録システムも大きく変わったため、その対応にも追われた。

業者変更に伴い、職員側も業務の見直しを行い、業務フローの改善、明大ローカルルールの簡略化、図書ラベルの統一などを行った。委託業者側とも業務の改善方法を何度も協議したが、結果的には、2010年度は目録および装備の品質に問題が残り、事後の訂正が多数発生した。資料の迅速提供もできず、滞貨も生じた。

委託業者の一斉切り替えは、明治大学図書館の目録業務にとって初めての経験であった。業者側も一定の目録のスキルを持つ人材を揃えなければならないし、また、図書館側も目録データベースの品質維持のために、委託実務者のための研修を行うなど、人材育成にかかわる必要以上の業務が増えた。図書館側の人的負担は非常に大きかったといえる。

目録・装備の委託業務が円滑に行われていくためには、職員側も目録作成のスキル向上だけでなく、

マネジメント力も必要とされる。職員が全く目録作成業務から離れてしまうと、業務委託が適正に行われているのか、目録データベースの品質は保たれているかなどのチェックも困難になり、かつ業務の改善案を提案できなくなってしまうという懸念が大きい。目録・装備業務における業務委託のあり方と職員の役割については今後も検討していく必要があるだろう。

### 3.1.5 政策経費購入資料への対応

経常予算以外で購入された資料として、学習用複本図書、新学部設置経費による購入図書、外国図書充実予算による購入図書の目録・装備を行った。

### 3.1.6 東日本大震災による影響

3月11日の東日本大震災、およびその後の計画停電による影響で、NIIの目録作成システムが数日間にわたって停止、あるいは限定的な稼動となった。明治大学図書館の目録作成業務はNACSIS-CATに登録することが前提のため、NACSIS-CATが利用できない間、委託業者には、次年度委託作業の準備作業となる寄贈資料の重複調査などを依頼した。

### 3.1.7 雑誌受入業務

2009年度から引き続き(株)明大サポートに業務委託をした。

業務内容については、発注データ作成、マイクロフィルムの刻印、目録データ管理等について新たに委託を開始した。

納入業者のシステムトラブル、震災、大規模な納入業者の切り替え等の影響で、NACSIS-CATの雑誌一括所蔵更新作業に若干の遅延があった。

### 3.1.8 「時田昌瑞ことわざコレクション目録」私大図書館協会賞受賞

2010年度に図書館と博物館で共同刊行した「明治大学図書館・博物館所蔵 時田昌瑞ことわざコレクション目録」が、2010年度私立大学図書館協会賞(図書館の研究・調査業績/書誌・歴史部門)を受賞した。受賞理由として、目録作成だけでなく図書館と博物館が協同して展示の実施やカタログの作成、講演会などの活動を展開したことが、今後の図書館と博物館のコラボレーションのヒントになりうるとして、高い評価を得たことによる。受賞式は2011年度私立大学総会・研究大会開会式(於:早稲田大学)にて行われる。

### 3.1.9 システム関連業務

本年度は、2009年度中より計画していた図書館システムソフトウェアおよびハードウェアの大規模リプレイスを実施した。1999年より運用を開始した富士通社製 iLiswave から同社製の iLiswaveJ へのアップグレードであった。このタイミングに合わせて、長年の懸案事項であった各種の課題解決にも着手し、データ整合性の是正や不要データの削除も合わせて実施している。ハードウェア面ではより一層のシステム高速化と安定化を目指し、公開系/管理系サーバ共に、複数台での運用とするばかりではなく、ワールドスタンバイバックアップの充実や、障害時復旧対応の迅速化も行った。

利用面での新機能は、オンラインジャーナル等の電子資料の書誌データを冊子資料書誌と同時に検索できるようになったことである。当該機能の実装のため、各出版社等より書誌データの提供を受けて、書誌データをローカルシステムに登録している。無事当該機能は稼動したが、検索仕様の問題のため、やや全体の検索スピードの低下が見られた。これは次年度以降の大きな課題として積み残されたままである。

新和泉図書館建設関連では、ネットワークを含む仕様設計を行った。これまではなかったデジタルサイネージの部分がシステム業務として加わり、積極的に機器やソフトウェアの選定に関与した。従来どおり利用者用コンピュータについても検討を進めた結果、最適な環境を迅速に利用者提供するために、ネットブックタイプのシステムを導入する方向で検討を進めた。

中野キャンパス関係については、単にシステム的な問題だけではなく、新たな図書館が1つ加わることとなり、図書館システムソフトウェアの設定も大幅な変更が必要になってくることから、関係者と密に連携しながら、仕様検討を進めている。実際のシステムカスタマイズは、2011年度になる予定である。

## 3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、本大学創立 120 周年を記念して、2001 年 3 月 16 日に開館した。地域に開かれ、街と人の記憶に融合するように設計された中央図書館は、美しい内観と充実した設備を誇り、2002 年日本図書館協会建築賞を受賞した。専任職員 8 名、業務委託スタッフ 21 名、総合インフォメーション 6 名、短期嘱託職員 2 名、派遣職員 1 名あわせて 38 名、および学生アルバイト若干名で運営されている(2011 年 3 月 31 日現在)。蔵書体系や図書館リテラシー教育の拡充について、他の 3 図書館事務室と連携して推進中であるが、2010 年度の特記すべき図書館活動、懸案事項や 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災とその後の開館状況について、簡潔に記述しておきたい。

### 3.2.1 休日開館におけるサービスの拡充

休日開館日は、要員配置の都合から、利用者のセルフサービスが基本であるが、すでに 2008 年 11 月以来、貸出、予約、配送本の受渡し、貸出ノートパソコンの利用について、業務委託でサービスを実施してきた。また電卓使用者優先席として、多目的ホールを追加開放した。リバティアカデミー主催「図書館司書講習」開講日は、多目的ホール、グループ閲覧室を利用に供した。

### 3.2.2 図書の返却窓口の多様化

図書の返却窓口は、1 階エントランスの返却用ポスト、レファレンスカウンター、地下 2 階貸出カウンターの 3 箇所のほか、防災センター脇の返却ポスト(リバティタワー閉館中も対応可)、郵送・宅配、和泉・生田図書館の窓口でも図書返却を受け付けている。

### 3.2.3 入館者総数・各種ガイダンス等の参加状況

新入生ガイダンス(法科大学院、大学院研究科、会計専門職研究科、ガバナンス研究科・グローバルビジネス研究科合同)参加者 692 名、文学部 3 年次ガイダンス 760 名、留学生オリエンテーション 31 名、新任教員ガイダンス 18 名、フリースター9 名、ゼミスター 896 名、情報検索講習会 266 名、グループガイダンス 3 名で、参加延べ人数は合計 2671 名(2009 年度 2847 人)だった。そのほか、新任職員研修等を実施し、一部については、図書館総務事務室と共同で実施した。

利用者総数は、948,513 人(2009 年度 955,701 人)で、前年度に比べて 7188 人減少した。原因は、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災後の臨時休館、利用制限、開館時間短縮による。2011 年 3 月 31 日現在、大震災前の平常開館体制に復旧する見込みは不明である。

### 3.2.4 中央図書館ギャラリー展示

中央図書館事務室員 4 名、図書館総務事務室員 2 名によるワーキンググループで、下記のとおり 5 回の展示を行った。第 34 回「新収貴重書展」3 月 24 日～4 月 28 日、第 35 回「水俣ポスター展」NPO 法人「みなまたフォーラム」共催 5 月 2 日～5 月 25 日、第 36 回「ことわざワールドへようこそ一時田昌瑞ことわざコレクションのすべて」博物館と同時展示 5 月 28 日～7 月 6 日、第 37 回「図書の文化史」7 月 13 日～9 月 30 日、第 38 回「中田正子 明治大学が生んだ日本初の女性弁護士」主催:明治大学中央図書館・明治大学大学史資料センター・鳥取市歴史博物館 後援:明治大学法学部・明治大学情報コミュニケーション学部ジェンダーセンター・明治大学法科大学院・日本女性法律家協会・鳥取弁護士会 10 月 16 日～2011 年 1 月 28 日、第 39 回予定の「新収貴重書展」は、東日本大震災の影響で 2011 年度に延期した。図書館資料室の壁面とコピー室脇の通路にピクチャーレールを設置し、既存の展示パネルを利用して掲示した。また千代田区ミュージアム連絡会に 2 回参加した。

### 3.2.5 各種イベントの開催

第 1 回図書館書評コンテストは、「教育の場」として図書館の積極的な活用を奨励するとともに、優れた書評の顕彰を通して学生の読書活動を推進することを目的として企画した。中央図書館事務室が事務局となり、3 図書館で計 6 回の「書評の書き方講座」を行ない、約 60 人が参加した。27 編の応募があり、4 図書館事務室有志の協力による予備審査、選考委員会による選考を経て、最優秀賞などに 8 名を選定した。2 月 1 日に多目的ホールで授賞式を行った。

中央図書館は、2001 年 3 月 16 日に開館して以来の延べ入館者数が、2010 年 7 月 5 日に 850 万人、2011 年 1 月 21 日に 900 万人に到達した。延べ入館者達成記念イベントとして、図書館長からそれ

ぞれ認定証と記念品を贈呈した。

「知」による社会貢献として、8月3日に小・中学生3名が大学図書館の業務を体験する第2回「一日図書館長体験イベント 大学図書館長のイスをめざせ！」を開催した。

同様の社会貢献として、「『書誌学の父』ゲスナー賞文庫開設記念講座『本の愉しみ』」を企画し、リバティアカデミー講座として開催した。講義は、ゲスナー賞審査委員の高宮利行慶應義塾大学名誉教授や書誌学者の林望氏、そのほか吉田図書館長など多彩な講師によって行われた。「ゲスナー賞文庫」は、中央図書館1階で公開している。

利用者マナー教育と学生の読書活動推進を兼ねて、中央図書館で図書館バッグデザインコンテストを行なった。最も人気の高いデザインで作成した図書館バッグは、各図書館事務室の協力により、3図書館・ローライブラリーの各窓口で、2011年5月2日から新入生向けに配付することとした。

### 3.2.6 施設・設備の保守・管理状況

地下3階マイクロフィルム搬送機、ダムウェーダー、ブックチェックユニット、ブックディテクションシステム(BDS)等の定期点検または修理を行なった。2002年の日本図書館協会建築賞の賞状と副賞陳列ケースをエントランスのゲート前に展示した。閲覧用椅子70席のクロス張替え、折畳みイス・机等の修繕、書架棚板のペンキ塗り直し、明大通り側入口のドアクローザー設置、B2F貸出カウンター等の非常通報ベル設置について、関係部署の理解・協力を得てこれを行なった。1階・地下1階の閲覧室に無線LANが設置された。中央図書館地下2階の連絡通路～記念図書館地下2階書庫の連結部分での漏水は、そのつど電気室を通じて所管部署に改善を要請している。

### 3.2.7 大学主催「環境展」への協力

「環境展」(会場:リバティタワー1階 会期:2011年12月6日～12月10日)において、図書館所蔵の環境問題関連図書のリストを配布した。内容は、2010年度に本学教員等が執筆した環境関係図書75冊のリストであり、当該図書は、図書館入口に展示した。

### 3.2.8 ローライブラリーの開館日増加と法学研究科院生の利用促進

ローライブラリーは、中央図書館の館内整理休館日も開館した。また法学研究科院生の入館は、法科大学院生と同様に、学生証の提示で可としている。

### 3.2.9 利用者からの要望・苦情への対応

2001年の図書館開館当初から、投書箱を設置して、利用者の声に耳を傾け、図書館サービスの改善・向上に努めてきた。また5月31日に第一回「図書館自己点検・評価の集い」を開催し、中央図書館事務室全員と業務委託業者責任者が、5名の参加者から直接、生の声を聞き、さまざまな質疑に応じた。今後とも図書館環境の改善・サービスの質的向上に取り組んでいきたい。

印象に残る投書は、2件だった。閉館アナウンス、盗難防止や講習会参加を周知する放送について、「うるさい」「集中を妨げる」という投書があった。しかし、正常な図書館運営にかかわる放送は、今後とも適宜行いたい。

次に、「24時間開館」を求める投書があった。ちなみに「24時間開館」の要望は、これまでに7件(今回分を含む)あった。2005年度に1件、2008年度に2件、2009年度に2件、2010年度に2件である。回答は、いずれも「実現困難」だった。理由は、キャンパス運営体制、コスト増、省エネ、予算の制約などの観点から、実現困難とした回答だった。また、電子ジャーナルの導入や雑誌の短期貸出実施で、利便性が向上したことも、理由にあげられていた。今回の回答も、やはり「実現困難」である。中央図書館は、年間に95万人前後が利用しているが、開館時間は、「現状維持」が適切と考えている。開館時間の範囲で、効率よくご利用いただきたい。またサービスの向上のため、1階エントランスに置き傘を用意し、雨天時に傘を持たない退館者の利用に供した。

### 3.2.10 図書館の国際交流、および大学間交流の増加

大学の国際交流推進にともない、海外からの視察や図書館利用者が増加した。主な名称を挙げれば、米国ノースイースタン大学共同プログラム(マサチューセッツ州)、南カリフォルニア大学共同プログラム、国際交流基金関西国際センター文化・学術専門家日本語研修(ヘルシンキ大学図書館、上海)、日本・ベトナム学生交流会、ソロモン・クック諸島高校生、マレーシア日本国際工科大学職員研修、中

国青年政治学院図書館、仏国立ストラスブール大学図書館、ルーマニアブカレスト大学、国際図書館連盟(IFLA)日本現地視察団、米国シカゴ図書館員などがあつた。

また国内の大学・図書館等から受け入れた主な視察・研修等を挙げれば、山梨英和大学附属図書館、国立教育政策研究所「平成 22 年度図書館司書専門講座」、国立国会図書館平成 22 年度 3 級研修、甲南大学図書館、北九州市立大学学術情報総合センター、関西学院大学図書館などがあつた。

### 3.2.11 2011 年 3 月 11 日発生の大震災への対応

大震災は、午後 2 時 46 分に発生し、ゆれは 4～5 分間続いたように感じられ、東京は震度 5 強を記録した。中央図書館は、転倒防止で連結された書架等が大きくゆれたが、人的被害は無かつた。施設・設備には、目視点検の限り、大きな異常は認められず、書架から落下した図書を除いて、被害はほとんど無かつた。

図書の落下は、開架エリアでは、B1F が多く、B2F、B3F の順で少なかつた。落下本は、当日中にスタッフが復旧した。記念書庫では、B1F は異常なく、B2F は上層で落下が多く、下層はわずかだつた。上層部分の落下本は、後日復旧した。B2F 下層の通路奥で、平積みの資料が荷崩れして散乱したが、後日復旧した。B3F は、上層での落下が多く、下層は少なかつた。上下層とも当日に復旧した。ローライブラリー・第三書庫は、とくに問題なかつた。貴重書庫は、手前の室の準貴重書が、落下破損した。後日、棚へ復旧し、破損した表紙は補修を必要とした。

ちなみに、リバティタワーの耐震性能は、震度 5～6 レベルでは、構造体にはほとんど損傷しない。震度 7 レベル(阪神淡路大震災レベル)では、構造体の一部に損傷がでるが、重大な損傷は無く、倒壊しないとされる。

3 月 11 日は、午後 6 時で臨時閉館し、利用者は帰宅または大学が指示した教室等に移動した。鉄道路線がストップし、約 30 名の職員・スタッフが帰宅困難となり、館内で余震に不安を感じつつ夜を明かした。

3 月 12 日(土)～15 日(火)は、中央図書館・ローライブラリーは、大学の要請および鉄道不通のため臨時休館した。職員の勤務体制は、縮小規模(出勤可能な職員のみ)で通常勤務だつた。

3 月 16 日(水)は、午前 10 時～午後 5 時まで、書庫入庫を除き通常開館した。3 月 17 日(木)から 31 日(木)までの平日は、大学の指示で午前 10 時～午後 5 時まで開館し、1 階マルチメディアエリア利用、レファレンスカウンターでの図書貸出・返却のみ対応した(土・日曜・祝日は休館)。地下 1 階以下のフロアおよび書庫は、立ち入りを規制し、請求図書は、スタッフが出納方式で対応した。この間に、3 月 26 日の卒業式、4 月 7 日の入学式は、中止が決まつた。

3 月 11 日以降の開館状況は、下記のとおりである。

日付	開館時間等	開館・閉館
3 月 11 日(金)	8:30-18:00	地震の影響で臨時に開館時間短縮。
3 月 12 日(土)	休館	地震の影響で鉄道路線が運行せず、また余震も続いたため休館。
3 月 13 日(日)	休館	地震の影響で休館。
3 月 14 日(月)・15 日(火)	休館	地震の影響で休館。但し、業務実施。
3 月 16 日(水)	10:00-17:00	開架エリア・閲覧席の限定サービス。
3 月 17 日(木)・18 日(金)	10:00-17:00	貸出・返却・マルチのみの限定サービス。
3 月 19 日(土)～21 日(月)	休館	地震の影響で休館。3/19 は業務実施。
3 月 22 日(火)～25 日(金)	10:00-17:00	貸出・返却・マルチのみの限定サービス。
3 月 26 日(土)	休館	地震の影響で休館。卒業式は中止。但し業務は実施。
3 月 27 日(日)	休館	地震の影響で休館。
3 月 28 日(月)～30 日(水)	10:00-17:00	貸出・返却・マルチのみの限定サービス。
3 月 31 日(木)	休館	館内整理日。但し、業務は実施。

参考までに、4 月 1 日から 24 日までの開館時間は、下記のとおりだつた。中央図書館は、平日・土曜

日：9:00～18:00、休日：10:00～17:00(従来どおり)、サービス体制は通常どおり(各階・書庫に入室可)。ローライブラリーは、平日・土曜日：9:30～18:00、休日：10:00～17:00(従来どおり)、サービス体制は通常どおり。

### 3.3 和泉図書館事務室

#### 3.3.1 業務体制と人事政策

専任職員 5 名、派遣職員 2 名及び業務委託(1, 2 部)13 名で業務を遂行した。新図書館建設関係会議およびゼミガイダンスの実施でサービスカウンターが手薄になる状況を補完するために、2009 年 6 月中旬より派遣職員 1 名が採用となり、本年度も引き続きレファレンス業務の一翼を担うことになった。専任職員では男女比が 2 対 3 となり、男性特有の資質が仮・図書館移転作業に貢献することとなった。業務の遂行にあたり、担当の垣根を低くして互いに協力し合うことを確認した。またサービス現場の担当部署として、全員が利用者に直接接することをモットーとして図書館のミッションを図書館事務室内に掲げ、これを目標とした。人事政策に関しては、専任職員の比率を高めることが今後の目標であるが、数だけではなく各自が自らの能力を引き出すことが最重要であり、暮れに開始された人事課主催語学研修には全員参加した。

#### 3.3.2 和泉キャンパス新図書館と業務運営

和泉図書館の歴史で専任職員数が最少の状況の中、新図書館建設のための仮・図書館(図書館 A 館)と第四校舎(図書館 B 館)への移転作業を夏季休業期間中に行った。この移転に先立ち、移転先の蔵書収容能力に限界があるため、本年度を含めて 2 年間で約 6 万冊の蔵書除籍を行った。さらに蔵書移転先を旧明高中体育館と生田保存書庫に振り分ける作業も行った。したがって、2010 年後期からは蔵書は次の 4 箇所収容して運用することとなった。1: 図書館 A 館(開架図書)、2: 図書館 B 館(一般図書書庫本)、3: 明高中体育館(参考図書書庫本)、4: 生田保存書庫(貴重書などの別置扱い図書)。利用サービス面からいえば、資料が 4 箇所分散した点で、著しいサービス低下といえる。また運用面でもマンパワーの拡大を余儀なくされ、とりわけ図書館 B 館の書庫本はダンボール詰めで単管パイプ上に配置したために、出納作業に多大な労力をかけることになった。利用者が直接利用できる建物は図書館 A 館と図書館 B 館である。前者は旧図書館の基本的な機能を最小限維持できるものとした。後者は座席数の確保のために 3 階を閲覧席として利用している。専任職員 5 名体制で正常な図書館運営を行うには、事務管理職のあり方が重要になっている。オリエンテーションやゼミガイダンス、レファレンスサービスを管理職自ら直接担当しなければ一般職員への信頼が失われる。職員の疲弊感を和らげるためにも、あるいは要員がたとえ何人いようとも、リーダーが先頭に立つ姿勢が一般職のモチベーションに深く関わっていることを証明したこの一年であった。

#### 3.3.3 代替施設移転のための蔵書の除籍と今後の課題

和泉キャンパス新図書館への蔵書移転に先立ち、代替施設における蔵書収容能力が課題となった。そこで、除籍基準に照らし合わせて積極的に除籍を行い、36,184 冊を除籍した。

この数字は図書館全体の年間蔵書除籍平均値の約 3 倍にあたる数字であり、単館でこれだけの除籍を行ったのは明治大学図書館の歴史ではきわめて異常である。2011 年度は有用な資料を収集し、むしろ蔵書を増やす方針である。

#### 3.3.4 新入生ガイダンス

全学部の新入生ガイダンス時に図書館利用案内(約 30 分)を実施した。新入生向けの図書館ガイダンスの目標を「印象づけ」と設定し、DVD『情報の達人』第 1 巻 第 0 講「図書館へ行こう!」の上映(15 分)とパワーポイントによる説明を行った。単なる図書館の利用説明にとどまらず図書館を中心に情報を入手して活用する「情報リテラシー」の大切さを実感させ、図書館が情報リテラシーの拠点であることを印象づける内容を目指した。また館内フリーツアーおよび例年好評であるスタンプラリーを実施した。

#### 3.3.5 杉並区図書館ネットワーク

杉並図書館ネットワークは杉並区民や区内参加大学図書館利用者への開放(閲覧・貸出)を実施し

ている。区民及び利用者へのライブラリーカード発行枚数 42 枚、入館者数延 2,168 人、貸出冊数 438 冊となっている。同ネットワークの企画事業として毎年開催している講演会は、本年度は 10 月 9 日に杉並区立中央図書館視聴覚ホールで開催された。当日の参加者は 80 名であった。講演会を午後を設定したことにより、例年と比較して集客に効果がみられた。また新規事業として、同ネットワーク事業を紹介するしおりの作成を行った。各参加校および杉並区立中央図書館で 800 枚ずつ配布を行い、利用者に同ネットワーク事業について周知を行っている。

### 3.3.6 シラバス図書運用の改善

シラバス図書の迅速提供を最大の目的とし、昨年度は各図書館の発注担当者との協議の上、抜本的なシラバス購入方法の改善を行った。その結果、これまで行ってきた自館での既存資料との重複チェックを廃止することで業務の大幅な軽減が可能となった。また作業工程の短縮化に伴い、委託書店の負担も軽減され、発注から整理、装備、配架までに要する時間を大幅に短縮することに成功した。年度末には、前年度のシラバス図書を「旧シラバス図書」としてデータ変更を行い、A 館 2F に「旧シラバス図書コーナー」を設け、貸出可能とすることにより、学生への利用促進を行っている。

### 3.3.7 利用者サービス（接遇）の改善

接遇改善を業務の柱として鋭意務めている。開館と同時に入館ゲートで専任職員が「おはようございます」の挨拶を励行し、声かけを行う習慣が職員に定着した。また受託業者も利用者に親切に接しており、カウンター対応に問題はない。ホッチキス・はさみを貸出カウンター対面に配備し、文具の利用サービスを開始した。

### 3.3.8 その他

利用者の声を反映するために投書箱を設置している。本年度の投書は 25 件であった。一方、オンラインレッジサービス経由の要望は、和泉図書館については 0 件であった。新図書館への意見が数多く寄せられたのも前年度からの傾向である。私語の取り締まり強化に関する要望はあるが、飲食取り締まりに関する要望はなかった。

## 3.4 生田図書館事務室

### 3.4.1 各種改善工事

- ① 老朽化した第 1 開架閲覧室のスチール製書架 126 連、第 2 開架閲覧室シラバスコーナーの木製書架 16 連及び辞書棚 3 台の入換えを実施した。この結果、書架のデザインも統一され、閲覧室の雰囲気大幅に向上した。
- ② 館内防火扉について、2009 年度中の消防署からの改善指導を受け、13 箇所との交換工事を実施した。

### 3.4.2 展示ギャラリーの運用

運用 3 年目を迎えた 2010 年度は 12 件(学部・研究科等企画 10 件、図書館企画 2 件)の企画展示を開催した。内容は学部生・大学院生の作品発表、教員・研究室・ゼミナールの研究・活動成果発表、学外文化人等の招待・協同による作品発表等。年度途中から広報課を通じてのプレスリリースを実施した結果、4 企画が新聞で紹介された。とりわけ「いま、アイヌを生きる」、「黒川の自然と文化展」の 2 企画については、主催者が新聞社から展示現場で取材を受け、写真付きの詳細な記事が掲載された。展示企画に関連したイベント、パフォーマンス、ギャラリートーク等も定着し、活発な文化発信が展開された 1 年であった。詳細は「4 主要行事 生田図書館ギャラリー(名称 Gallery ZERO)展示一覧」参照。

### 3.4.3 情報リテラシー教育の充実

- ① 農学部食料環境政策学科の「基礎ゼミ」のうち 2 コマ「図書館利用法と新聞記事検索演習」、「図書館を活用したレポート作成と文献等検索演習」に計 10 回、理工学部機械工学科の「情報処理 1」のうち 1 コマ「文献調査法・検索演習」に計 2 回の出張講義を行った。

- ② 図書館活用法の演習授業および上記農学部食料環境政策学科「基礎ゼミ」の出張講義に大学院生のアシスタントを各2名採用した。
- ③ 4月から7月の間にゼミツアー・グループガイダンスを19回行い、計193名の参加があった。
- ④ 情報検索利用講習会(Web of Science, Scifinder Web, DataStarweb, JDream II)を全7回実施した。
- ⑤ 「就活 Power up 講座」, 「英語文献検索講座」, 大学院生による「レポート・論文の書き方講座」を各2回実施した。

#### 3.4.4 学習用図書選書

- ① 6月16日に「教員による学習用図書選書委員会」を開催し、学習用外国書購入費の執行にかかる選書方法、学生の図書館利用促進等について意見交換を行った。
- ② 複本購入費(政策経費)については、過去2年と同様、教員に購入図書の推薦を依頼し、必要冊数を購入した。また、各月の貸出予約が付いた図書を抽出し、過去1年の貸出回数が5回以上の図書は3冊、それ以外のものは2冊が書架に揃うよう購入し、予算の120万円を執行した。
- ③ 学習用外国書購入費(政策経費)の生田配分額90万円の執行にあたっては、学習用図書選書委員を通じて理工・農両学部に学科単位での選書を依頼し、教員推薦の273冊に見計いによる選書を加えた計317冊の基礎テキストを購入した。
- ④ 理工・農両学部の教員に「教員が学生に薦める図書」の推薦を依頼した結果、12名から108冊の推薦があった。これを夏期休暇中の読書促進企画として下記6の特集コーナーで紹介した。

#### 3.4.5 特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を新着図書コーナー隣の書架に配架し、利用者に読書に親しんでもらう機会とした。

4月23日～5月20日	世界を知る・世界を読む
5月21日～6月17日	宇宙 神秘とロマンの世界
6月21日～7月15日	サッカーとアフリカ
7月16日～9月30日	教員が学生に薦める図書
10月1日～10月28日	生物多様性を考える
10月29日～11月25日	海と世界
11月26日～12月23日	エコロジーを考える
12月22日～1月20日	レポート・プレゼンに役立つ本、新書・文庫フェア

#### 3.4.6 理工学部総合文化教室資料室の蔵書点検

通常の蔵書点検作業に加え、総合文化教室資料室に配架されている約1,300冊の蔵書点検を共同で実施した。

#### 3.4.7 川崎市立図書館との相互協力

2010年度より、従来の川崎市立多摩図書館のみとの相互協力から川崎全市に連携を拡大した。この結果、ライブラリーカード作成者が前年度の40名から137名に、また、貸出冊数が同じく1,466から1,805に増加した。(入館者数については、入館ゲートの一時不調により、2010年度の正確な数値が不明。)また、11月と3月に川崎市立図書館側の来訪を受け、相互協力のあり方や今後の展望について協議した。その中で、2011年度以降、図書館の相互利用に留まらず、行事の共催等一層の連携を模索していくことで一致した。

#### 3.4.8 その他

- ① 投書への回答  
2010年度には8件(投書箱7件・オンラインナレッジ1件)の投書があった。内容は利用者マナー、施



設設備, 資料等さまざまである。有益な提言もある他, 回答を通じ, 利用者に対する図書館資料・サービスの一層の周知機会ともなっている。

② レファレンス業務の委託

4 月より, 平日 16:30~20:30 のレファレンス業務について, (株)明大サポートへの業務委託を開始した。